インターネットにおける遠隔学習サイトの考察
Looking at Distance Learning Site on the Internet

渡辺 哲郎
Tetuso Watanabe

黒上 晴夫
Haruo Kurokami

金沢大学大学院教育学研究科
Graduate School of Kanazawa Univ.

金沢大学教育学部
Faculty of Education, Kanazawa Univ.

＜あらまし＞ 今日、初等中等教育の遠隔学習は共同学習に関する研究が中心で、学習者個々人の多様性に対応した遠隔学習に関する研究は十分とは言えない。そこで本研究では、初等中等教育を対象に個別学習を支援する遠隔学習サイトの様子を調査し、不登校やその他の理由で通学できない学習者に対する支援について検討する。

＜キーワード＞ 遠隔学習 Webサイト ホームスクーリング 初等中等教育

1. はじめに

現在、不登校は12万人を超え、「誰にでも起こりうる」ものとなった。そこで本研究では、遠隔学習を初等中等教育において学習者の置かれている多様な状況に対応するものと捉え直し、遠隔学習でどのように学習者の多様なニーズをサポートするか、という点について考える。

インターネットを用いることは、学習者、学習コンテンツ提供者双方にとってコストの軽減となること、家庭への普及率が上昇してきていること、学習者が在宅学習に関する情報収集を手軽に行え、場合によっては新たな機材の購入をしなくてもすぐにどのような方法で学習するのか試すことができる、手紙よりも速く電話よりも多人数でコミュニケーションを図れる、など利点が多い。

以上から、本研究では遠隔学習とインターネット利用を考えることとし、その方法としてインターネット上の Web サイトの調査を採用した。

2. 調査のポイント

今回の研究では遠隔学習を提供する Web サイトについて、以下の点に注目した。

- Web サイトを設置している団体
- 対象
- Web サイトの提供している機能

Web サイトを設置している団体について、明らかな偏りがある場合、初等中等教育におけるインターネットを用いた遠隔学習支援について、あまり汎用的に考えることができないことが予想される。

対象は、年齢あるいは学年ということであるが、多様な学習者への対応という視点から言えば、この幅は大きい方がよい。

コンテンツに関しては、教材としてどのようなものが揃っているかではなく、機能という視点で調査した。 そしてこれらの具体的なコンテンツから概念的な機能を抽出・分類し、遠隔学習サイトはどのような機能を備えていることが望ましいのか、考察することとした。

3. 結果

3-1. 設置団体

今回の調査では yahoo.com のディレクトリサービスを利用し、Distance Learning を支援するホームページを探し、その中で労働者向けのリテラシー教育や高等教育を除き、初等中等教育に限定し、閲覧していった。Web サイト設置団体はやはり遠隔学習の先進地域である北米地域に集中したが、公立学校(チャータースクールを含む)、私立学校(ホームスクーリングを含む)、公的機関のプロジェクト、民間のプロジェクト、クリスチャン学校など多岐に渡った。これは北米の教育の多様性をそのまま反映している格好であり、すなわち遠隔学習が一部の教育機関の行うものではなく、広く浸透しているものであることを表していると言えるだろう。

3-2. 対象

やはり日本で言う中学・高校レベルを対象にしているところが多かった。また高校に関しては生

涯学習の一環として diploma を手に入れられるプログラムを提供するところがいくつかあった。

3-3. 機能

Web サイトの有している具体的な機能、そこから分類した概念的な機能を表1にあげる。

具体的な機能	概念的な機能
教材提示(テキスト、静止画、動画)	教材提供、教示
インタラクティブな授業	
教材オーダー	
課題提示	
学校紹介	情報提供
教師紹介	
スケジュール表示	
オンライン学習参観	
リファレンス、リンク、サーチ	
オンラインテスト	評価
教師への mail	評価および学習者のコミュニケーション支援
学習仲間への mail	学習および学習者のコミュニケーション支援
掲示板	
チャット	
生徒作品のpublishing	publishing

表1 サイトの機能分類

これらの機能は平均して備わっていたわけではない。大半は学校の紹介と販売する教材の案内、そして `mailto:' による e-mail の受け付け、であった。これはインターネットが日常的に利用されるようになってからの歴史よりも、いわゆる通信教育の形の遠隔学習の歴史の方がずいぶんと長く、まずはその方法をそのまま Web 上で展開しているところが多いものと思われる。中には教材が紙媒体でなく CD-ROM になっているものもあったが、それでもインターネットを十分に利用しているとは言いがたい。これは、公立学校、私立学校問わず、遠隔学習を提供する学校に比較的よく見られた。

対してプロジェクトの方はまさにインターネットの教育利用を目的としているのでインターネット上で教材を視聴し、テストを受けることができたり、他の学習者とコミュニケーションが図れたりするなど、多くの機能を装備しているものが見受けられた。また、ここ数年の間に on-line school と名乗る学校も数多く誕生しており、そうした学校も多機能な Web サイトを設置していた。こうしたサイトは機能的に多くのものを装備しているだけでなく、インターフェイスにも配慮が見られ、図1のように Web サイトを学校の建物の中に見たて、そこに各「部屋」を配置していくという手法も見られた。

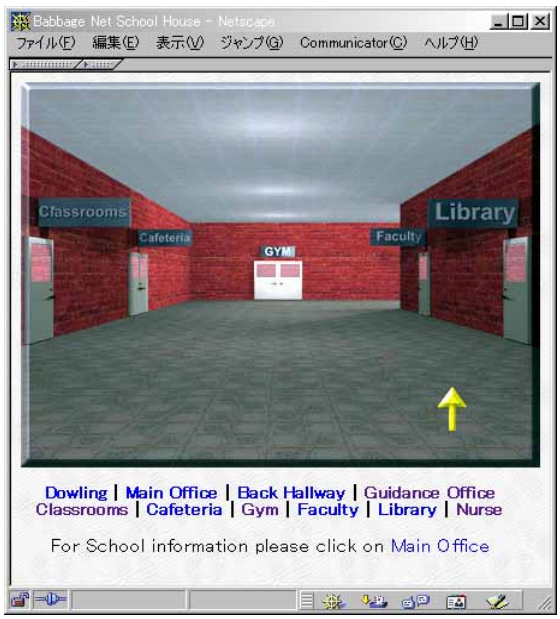

図1 学校の廊下のようなイメージを持たせたホームページ

これらの「凝った作り」のサイトに共通して言えるのは、学習者に楽しく学習してもらえるような雰囲気作りをしていること、学習者のコミュニケーションを支援する機能を備えていること、である。

4. おわりに

今回の調査で、インターネット上に学習者の個別学習を支援する on-line school が誕生してきていること、それらの多くは学習を Web 上で提供するだけでなく、学習者のコミュニケーション支援機能を有していることが分かった。

こうしたサイトには学習者を孤立させずに学習を楽しく進めていける配慮があると言え、この点はまさに日本の不登校問題に通じる部分であろう。また、様々な事情で通学できない学習者にとってもこうした配慮は心強い。

学校の設立や「通学」、「卒業」など法的な問題もあるが、今後の日本でのインターネットを利用した遠隔学習においても、こうした点は参考にしていきたいところである。このようなサイトが増え、学習の環境と情報が増えることは学習者の多様なニーズに応える第一歩となるだろう。